



「それぞれの個性を生かして成長してほしい」と、塚原さん

先輩から

自分第一ではなく
すべきことと考えて

アルピコハイランドバス 塚原昌美さん

アルピコハイランドバス(松本市島内)で新人の教育指導に当たっているのは、ガイド課係長の塚原昌美さん(34、安曇野市三郷)だ。今までは1から教えていたのが、今は0から教えていると、苦笑いする。

例えば、あいさつ。研修の時だけでなく、毎朝や社内ですれ違った時など誰にでも声をかけるのが常識だ。ところが、気持ちの良いあいさつができない新人が意外と多い。指示をしても自分の考えと合わないとか、動かないなど、まず自分を第一に考えてしまう傾向もある。「なぜそれが大切なのか、なぜやらなければならないのか」を納得して初めて行動につなげるといい。

ホスピタリティー(もてなし)を軸に自発型人材育成事業を手がけるサ・ホスピタリティーチーム(松本市笹賀)は、上司向けのセミナーも企画している。代表の船坂光弘さん(41)は「新人を迎える職場は、リーダーのあり方も変わっていく必要がある」と指摘する。「私は上司だ」と構えている人は、なかなか新人とコミュニケーションがとれないという。例えば、「報告、連絡、相談をしてこない部下が悪い」と言う上司に向けては、「新人は、どこからどこまで上司に話を持っていけばいいのか判断の基準が分からないでいる場合が多い」と説く。

上司も変わる時代に

上司向けセミナー企画 船坂光弘さん

新人もお互いの考えを知り、何を目指したいのか話し合うことが必要だ。実現のための方法の一つとして、船坂さんは「全員が同じだけ話す会議」を提案する。司会進行役と数人の発言で終わらせるのではなく、出席者全員が同じ時間分発言する。この方法で業績を上げた会社もあるという。

「リーダーは、各個人の力を引き出す役割が重要。任せられたり、チャンスを与えられたりすると、やる気やモチベーションが出る。新人時代、自分がしてもらってうれしかったことを思い出しみるのもいい」と船坂さん。部下を変えようとするのではなく、自分が変わる時代だと強調する。



「まずは人間関係ありき」と説く船坂さん

新人研修で学ぶ ビジネスマナー

各自自治体や商工団体は毎春、新社会人にビジネスマナーを学んでもらう研修を開いている。不況の影響などで厳しい採用状況となった松本平でも、3月下旬から4月上旬にかけて、研修を受ける新人の姿が見られた。松本市は3月24-26日、同市の県松本勤労者福祉センターで開催。参加した新社会人は、昨年の53社の165人を大きく下回る45社の94人とどまった。主催者側は、従来の大口参加企業の不参加などが要因とみる。



研修でおじぎやあいさつの仕方を学ぶ新入社員たち(9日、塩尻市)

一方、4月9日に塩尻市の中信会館で開かれた同市の研修には、20事業所の70人が参加。製造業が多い同市は当初、参加者が大幅に減ると予想したが、昨年の62人を上回った。1事業所で8人、15人が参加している所もあった。

塩尻市の会場に参加した長野銀行塩尻支店の上條弘さん(22、同市宗賀)は「お客さまを大事にできる社会人になりたい」、塩尻市役所の矢ヶ崎文さん(20、同市広丘吉田)は「覚えることがたくさんある。育ててくださる人の気持ちに伝えられるように頑張りたい」と抱負を語った。